

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げている	玄関先に理念が掲示されている。誰にでもわかりやすい内容になっている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が玄関先に掲示されており、職員が出勤時に一読し仕事に入るよう指導されている。	日々の入居者との係わり合いの中。理念を実現できるよう努めている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開設時に説明会を開催、契約時に家族へ説明、玄関先に掲示、ホームページにて情報公開、地域運営推進会議の開催時に説明	ホームページを通じて相談を受けることが多くなってきた。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	「こんにちは」「さようなら」などに日々の挨拶はもちろん、日ごろから近所の方との交流に勤めている	ご近所の方が玄関先にいる利用者に声をかけてくださる。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	仏事や地域活動(運動会、神事、溝掃除など)に参加	行事、老人会など回覧板を必ず目を通し参加できるよう努力している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者とは、日ごろから散歩の際言葉を交わしたり話をしたりしている		より地域に寝ずいた支援の実現のため、今年度より小規模多機能ホームを開設した
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価実施前に職員に意義については説明し、理解した上で取り組んでいる。		職員全員の理解が得られているかについては、不明。行き届くように努力を毎回している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、報告を行っておりその際たくさんのご意見もいただくことがある。		職員会議等で報告し、話し合いを行い、評価等をサービス向上にいかせるよう努めている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れをしている。そこからの報告書を職員に回覧しサービスの向上に役立てている。		介護相談員の方が訪問時に意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等に出かけているが、職員全員が理解しているかは疑問である。今までに必要とされる方がいらっしゃらないので今後勉強会などを開催する必要があると思う。		今後必要とされる入居者がいれば、活用できるよう支援したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんな場合でも虐待はしていないし、してはならない。		見過ごさないように注意を払っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得していただけるよう十分な説明を行っている。また、いつでも疑問があれば、聞いて頂けるような雰囲気づくりに努力している		十分な説明、
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付をホーム内外に設けている。また、契約時に何でも相談できるように相談窓口の説明をしている。苦情処理の方法など明らかにし、運営に反映できるようにしている		職員会議での報告と改善に向けた話し合い
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族様の訪問時に必ず、最近のご様子の報告は、もちろん、月に一度メイプル通信にて、その月のご様子、健康状態、受信の内容、レクリエーション、行事等、写真とともに送付している。		メイプル通信の作成
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付をホーム内外に設けている。また、契約時に何でも相談できるように相談窓口の説明をしている。苦情処理の方法など明らかにし、運営に反映できるようにしている		職員会議での報告と改善に向けた話し合い
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に一回の勉強会の来浅いで、職員からの意見提案を聞く機会を設けている		勉強会の開催
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各階の責任者が職員と話し合っ調整に努めている		適宜状況判断ができるようにしている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限に抑える努力をしている。職員を採用時に、職員にも伝えている。		異動があることが考えられるときは、ダメージが少ないように徐々に移動できるようにしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所からの外部研修参加もちろん、研修案内を掲示し自主参加を促している。職員同士人間関係を良くする様に指導している</p>	<p>外部研修への積極的な参加、受講後は、職員会議等で、報告している</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流する機会を設け、意見交換をする機会がある</p>	<p>グループホーム連絡会の参加</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>優れた指導者の存在とチームワークで信頼感と連帯感を強めている</p>	<p>運営者による、年2日の面接を行い意見を聞いている。また年2回の親睦会の開催</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者が、介護指針や理念に基づき方向性を明らかにし、職員とともに実践し、技術を向上しようとしている</p>	<p>職員との意思疎通されているので向上心をもって働くことができるよう努めている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接の機会を作り傾聴する</p>	<p>入居前の面接の実施</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族様からのご相談時には、傾聴し、困っておられること、不安なこと、求めていることについて把握するようにしている。また共感をすることによって安心していただけるよう努めている。</p>	<p>じっくり聞く時間の確保</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居が前提のご相談が多いので、すぐに入居できない場合は、ほかの提案もさせていただいている。		ほかのサービス事業所等との連携を計っている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるよう、家族との協力を得てサービスが開始できるようにしている。		家族との連携
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日をともに過ごす日常の中で、お互いの学ぶこと支えあうこと、喜怒哀楽を共にする関係を築けている		ともに過ごし共有できるものがあり、支えあえる関係を築いている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、情報の共有、交換に努め、共に本人を支えていただけようようにしている		家族との関係をもっと深め一緒に支えあえる関係をもっと築いていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係を理解し、配慮してより良い関係が築けるよう努めている		情報の収集
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人のなじみの方とは、電話や、手紙等で関係を続けていただけようように努めている。また訪問も随時来ていただける。		なじみの関係を断ち切らないように支援したい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しがちな利用者もいるが、職員が間に入り、関わり、また支えあえるような関係作りに努めている		職員を通さなくてもかかわりが持てるよう支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談等にはのるようになっている		相談業務
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、本人からの情報収集をしている。	○	センター方式の活用 本人が気兼ねせず思いや意向を話していただけるよう努めていく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族を含めそれまでの生活歴や暮らし方についての把握に努めている		センター方式の活用
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間365日切れ目のない記録に努め情報の共有と交換し現状を把握できるようにしている。		個人記録の活用と連絡帳の活用
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議はもちろん家族、医師との情報の交換と共有することでよりよく暮らすためのケアのあり方に反映させている。		家族、関係者との関係をもっと深め、介護計画が作成できるように努めつ。か
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に変化が生じた場合、臨時のケース会議、その他関係者の意見を聴いたりして介護計画の変更を随時行っている。		介護計画の変更(6ヶ月の定期的見直し、臨時の場合有り)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に、毎日の様子やケース会議で決めたことを実践し、記入している。改善点など再びケース会議にて話し合い、情報の共有、見直しに努めている。		つきに1回にケース会議、または、必要なときにカンファレンスを行い見直しに生かしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じたサービスの支援に努めている。		グループホームの柔軟性を生かし、なるべく要望に応じられるよう努力している
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に2回の消防訓練、救急法の受講、ボランティアの受け入れ、を行っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームではほかのサービスを受けるには、実費となるため、本人・家族の意向があれば、利用できるように支援している。		ご本人のために、使いたいほかのサービスはたくさんある
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域密着型サービス事業所として、情報の提供、交換などしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望している医療機関を利用させていただいている		日ごろ情報提供も受診時にしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		19年7月より小規模多機能ホームが併設になり看護師が週3回来るようになった
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		受け入れる側の体制を整えるようにしている。(ケアプランの変更、カンファレンスなど)
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		ユニットだけではなくメイプルリーフ宇治職員全員が共有できるようにしている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		家族とのトラブルはない
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		情報提供

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の一人ひとりを敬い、失礼のない様に対応しているが、知らず知らずのうちに、失礼な対応になってしまっていることがある。(言葉使い)	○ より親しみをこめることは大切だが、その中で礼儀を忘れないようにしなければならない
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や、決定権を大切にしそれを引き出せるよう努めている	常に簡単な、選択が出来るような、選択肢を考えておく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿って支援を行っているが、職員側の都合を押し付けているときもある。	○ 職員同士が、注意しあっていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの用意などは、本人と一緒に選んで用意する。	いつも同じ服装にならないように注意している
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、利用者の方に聞き、食材の購入、食事の準備、片付けを行う	食事を利用者みんなで楽しめる工夫をしている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品の制限はないが、一人ひとりの状況に合わせて支援している。	入居時に嗜好品について、情報収集している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助が必要な方に対して気持ちよく排泄していただけるよう、声かけの仕方には気をつけている。		モーニングケア、毎食事の前、オヤツの前、ナイトケアに誘導し、うがいとともにを行う
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、水、金と一応入浴日は決まっている。体調、行事等で変更は、随時可能		入浴順なども決めたが不満は聞いていない
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昨夜熟睡できなかつたり、体調が悪かつたり、傾眠が続くようなときは、昼寝などをしていただき夜間の良眠と、日中、快適に過ごせるように支援している		利用者一人ひとりの状況に配慮して、安眠、休息できるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来ること出来ないことを見極め、役割、楽しみごと、気晴らし方を見つけていく支援をしている。		作業も、レクリエーションも、本人の意思にて行っている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を能力に応じて、家族と話し合い所持していただき、その使い方については本人の希望に沿う		買い物ができる機会の確保をしている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会は常に確保されており日常的に行っている		希望に添えるよう努力している
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日ごろからどのような場所に行きたいか情報収集し、実現できるよう支援している。		家族の協力が必要な場合がある(パチンコなど) 6月にホーム全体で伊勢旅行に行った

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の使用は、いつでも使用できるようにしている		リビングに電話を設置している
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	契約時にいつでも訪問できることを伝え、各居室においてもゆっくり過ごすことが出来る		お正月、お盆には、家族が泊まることもある。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない	○	勉強会の実施を継続的にやりたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	最小限鍵はかけていない		安全の確保や間は、鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋に入るときには、必ず、ノックし、また用事等で入るときは、声かけし、何で入るか伝えるようにしている。		昼夜を問わず、見守りの徹底
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要なものに関して、一人ひとりの状況に合わせ、カンパレンス等を通じて危険を防ぐ取り組みをしている		事故の防止
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起らないように、ケアの見直し、チェック表の作成、消防訓練を行っている		マニュアルの作成

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の受講をしているが、施設内で定期的には行っていない。しかしマニュアルは、作成しており、それに沿って対応できるようにしている	○	定期的な勉強会の実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防訓練を実施している。マニュアルを作成してある	○	地域の人びとの協力が得られるよう日ごろからもっと働きかけるようにしたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者に起こりうるリスクについては、家族等と話し合い対応策を講じている		話し合いの設定
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録の記入はもちろん、連絡帳等に記入し情報を共有し対応に結び付けている	○	情報の共有が出来ていないときもあり徹底する必要有
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が出来ているとは考えにくいですが、チェック表を作り服薬管理を行っている	○	服薬の大切さと必要性をより適確に知るようにしたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならない様に、日ごろから運動と食事に注意している。		外出など身体を動かす働きかけを常にしている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいやモーニングケア、ナイトケア時に口腔ケアを行い、また月2回の衛生士の口腔ケアを行っている		一人ひとりに応じた支援が出来ていると思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常にお茶が自由に飲めるようにしたり、個々の食事量・水分量について常に気をつけている		一人ひとりに応じた支援が出来ていると思う
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成。職員会議等を通して、共通の認識を持てるようにしている。		流行しそうな季節には、パンフレットなど回覧するようにしている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒には気をつけ、衛生管理表にて毎日チェックしている		担当を決め確実にやっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に開放しており、また玄関先には、花壇・ベンチを設けている		入りやすい環境づくりをしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感、生活観を大切にし、共用空間でゆったり過ごせる工夫をしている。		リビングで過ごす時間が長い
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく廊下にも数箇所、椅子・ソファを設置している		思い思いのところで過ごすことが出来ている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室中のものは、家族にて用意していただき、思い出のものも多い。また仏壇などを持ち込むことも出来るようにしている。		配置など本人と相談しながら落ち着いて過ごせるように工夫している
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節には常に注意し、利用者の体調管理に役立っている。		外気温と大きな差がない様に設定している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は、本人のADLに配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		ベッド・手すりの設置など
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	どらわかりどれがわからないのか、を把握しケアをするときの声かけなどに注意している。また混乱や失敗を招かない工夫をしている		混乱を招く原因を突き止める
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには、花壇・ベンチを設置している。またにわでは、ティタイムやバーベキューを楽しんでいる。		遠くに散歩に行けない方は、ここで日光浴もされる

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出支援、外食支援、行事への取り組みを積極的に取り組んでいる。明るく、楽しく、過ごしていただけるよう支援している。